

鈴木コーチ就任！急激なる成長
“原点回帰”

N.

第87回箱根駅伝大会
フラッシュニュース

02

伝統の日大復活

“チーム日大” 成長

強化合宿～トレーニングする選手達～



堂本、ベンジャミン



坂下、和田



田村、高月

41回大会

3区を快走する
鈴木コーチ

区間成績 1位

9回目の優勝！！



写真提供：陸上競技社

写真提供：Media-Boxs社

Coach

～鈴木従道コーチの戦歴特集～

第41回大会 総合優勝 3区 区間1位 1時間1分46秒

第42回大会 総合2位 9区 区間2位 1時間15分53秒

第43回大会 総合優勝 2区 区間3位 1時間15分27秒

第44回大会 総合優勝 2区 区間3位 1時間13分52秒 11勝目

全盛期の日本大学陸上競技部箱根駅伝チーム”襷”の中心メンバーであった。

News 日大、名門復活へ超大物OB鈴木氏がコーチ就任

鈴木氏は日大時代、65年から4年連続で箱根駅伝に出場。65、67、68年大会では総合優勝に貢献した。指導者としても93年シュツットガルト世界陸上女子マラソン金メダルの浅利純子を育成。06年からは競歩の山崎勇喜（26）＝長谷川体育施設＝の専任コーチとして、08年北京五輪7位入賞に導いている。

大学からは無給。山崎の指導を続けながらのボランティアコーチとしての招へいが、チームの現状を「距離不足」と判断し、早速11月中旬から自身が拠点とする栃木・大田原市にあるゴルフ場で2週間にわたる合宿を実施。この時期としては珍しい、芝生を1日平均40キロ走るハードトレーニングを敢行した。大会に向けて主務から主将に抜てきされた和田朋之（4年）は「この1か月で800キロくらい走った。この時期では今までなかったが、鈴木さんのおかげでチームが引き締まった」と手応えを見せている。

昨年度は出雲、全日本で優勝しながら、箱根駅伝は15位に沈んだ。8年ぶりに回った10月の予選会でも関東インカレポイントによるアドバンテージタイム（AT）を使っての7位通過。AT制度が導入された02年度以降、同制度を使って本戦に出場した大学は、シードを獲得していない。前評判も高くない中で迎える82回目の箱根路。科学的なトレーニングと激しいゲキで、名門復活へのアシストを期待されている。

◆鈴木 従道（すずき・つぐみち）1945年10月16日、栃木県塩谷町生まれ。65歳。64年に矢板高から日大に進学。箱根駅伝には4回出場し、優勝3回、区間賞1回。日大黄金期の主力として活躍した。68年メキシコ五輪1万メートルに出場し、21位。88年にダイハツ女子陸上競技部監督に就任。92年バルセロナ五輪出場の小鴨由水、93年世界陸上優勝の浅利純子らを育てた。2005年、ダイハツ退職後は、08年北京五輪男子50キロ競歩の山崎勇喜を指導している。現日本オリンピック委員会 平成22年度 選任コーチディレクター。

（2010年12月13日 スポーツ報知より抜粋）

写真提供：Media Boxs社

